

今後の香川県立特別支援学校の在り方検討委員会（第3回）議事概要

日時 令和3年10月22日(金) 9:30~12:00

場所 県庁本館12階第1・2会議室

1 開会

あいさつ

2 議事

(1) 今後の香川県立特別支援学校の在り方検討委員会について（中間報告）

事務局より中間報告について説明。

委員からいただいたご意見やご提案については、最終報告書に反映させる。

(2) 香川県立特別支援学校の教員の専門性について

会長：県立特別支援学校の教員の専門性について事務局より説明をお願いします。

事務局：(議事(2)資料 特別支援学校の教師に求められる専門性について説明)

(資料1 特別支援学校の教師の専門性の向上に関する研修の現状について説明)

委員：(資料2 教育センターで取り組まれている教員の研修について説明)

事務局：(資料3 各特別支援学校で実施する研修の説明)

会長：教師の専門性の向上のための研修等についてご意見ご質問はあるか。

委員：現状として、特別支援学校は県立学校なので、高等学校の教員との人事交流がある。希望の有無にかかわらず、高等学校から特別支援学校に赴任される先生方が結構いる。早く高等学校に戻りたいという教員がいることも知ってほしいが、その一方で、認定講習で免許を取得し、特別支援学校でがんばりたいという先生方もいる。学校内で先生方が力をつけていく研修は大事だと思う。

各県立特別支援学校もそれぞれの学校オリジナルの研修を実施している。特別支援学校の教員だけでなく、地域の小中学校、高等学校の先生方にも広く案内して、参加を促している。当事者の方に話をさせていただくような研修もある。特別支援学校それぞれが工夫し、地域の支援を行っている。

現在、働き方改革が言われている一方で、個別の教育支援計画など教員の作成する書類は増えている。それを有効に活用できているかどうかという意見が教員から出ており、検討しているところである。生徒の実態も多様化し、生徒指導も多方面に及んでいる。働き方改革から逆行している現状も見られるので、なにか良い方法があればと思っている。

委員：特別支援教育障害種別研修講座という研修は、小中学校の特別支援学級の担任が一日をかけて特別支援学校で授業を参観したり、講話を聴講したりできる大変力がつく研修である。特別支援学校が実施している学習会、教材教具展等にも毎

年市町の教員が参加しており、市町の教員にとっては大変ありがたい。

高等学校と特別支援学校の人事交流についての話があったが、良いことだと思って聞いていた。市町立小中学校と県立特別支援学校の人事交流はなかなか難しいものがある。そんな中、市町立小中学校の教員は香川大学教育学部附属特別支援学校への赴任はでき、実際一定期間の赴任の後には、市町の特別支援教育を担っている。大学の教職大学院にも毎年何人か行っているが、修了後は管理職、特別支援学級の担任、指導主事等になっている。今後の市町の特別支援教育を担っていく人材を育てるための人事交流や研修になっていると感じる。毎年一人ずつでも市町立小中学校と県立特別支援学校で人事交流ができれば良いと思うが、ハードルが高い。教員自身の希望も加味してだが、長い教員生活の中で5～10年程、他の校種に赴任するということは、教員にとって大変勉強になることだと思う。専門性を育てるための人事交流はとても大切である。

委員：特別支援学校の小学部、中学部、高等部の先生方が連携し、大人になるために子ども達にこんな力が必要だということを考えられる校内研修が必要である。

委員：初任者が他学部の授業を見たり、他学部の先生方の講話を聴いたりする機会があることが大切である。

委員：特別支援教育に限らず、すべての教育現場で連続性は大切であると思う。資料にある個別の教育支援計画については、子どもにとって何が一番必要かということが現れてくるもので、支援や指導の専門性を生かすために有効だと思った。現状どのように作成され、評価され、次に生かされるのかということを確認にすれば、それぞれの場での専門性につながるように思う。

会長：事務局の方で次の説明をお願いし、続きの議論をしてまとめたい。

事務局：(資料4、5 特別支援学校教諭免許状の保有状況等について説明)
(資料6 研修の工夫・改善について説明)

会長：免許保有率や今後のまとめについてご意見いかがか。

委員：今はどうか分からないが、以前は、講師として初めて学校に赴任する者が特別支援学級の担任になるということがあった。そのような講師についてのフォローも大事だと思う。

現在、特別支援学校に支援センターが設置されていると思うが、そのような支援センターは玄関に近いよく見える場所にあると良いと思った。また家庭や社会生活が子どもに与える影響は大きいと思うので、福祉、行政と連携し、一人一人の先生方が子ども達の将来を見通して育てていくということは大切であると感じる。福祉関係の人が集まるような協議会にも顔を出していただくとありがたい。大学生のうちに、福祉、教育専攻のそれぞれの学生が関わりをもち、将来各々のフィールドで活躍する際に連携がもちやすいようにしているという取り組みが他県ではあるので、そのような取り組みを進めていくことも大切かと思った。

委員 : 先生方が研修し、努力してくれていることはとてもありがたい。専門性は子供にとってとても必要なことだと思うが、一年間目の前にいる子どもをしっかり見つめてほしいとも思う。親と担任が連携をとる毎日のコミュニケーションも大切である。

行動障害のあるお子さんに 12~15 年間どういう支援があったのかと思う事がある。そのような内容が研修に盛り込まれたりしているのか。

事務局 : 教員向けのカウンセリングマインド等の保護者支援の研修はある。今までの関わりはどうだったのかということを節目で振り返るといことは、研修の中でも取り組まれている。

委員 : 「自閉症の僕が跳びはねる理由」という本があったが、びよんびよんはねることはその子にとっては落ち着くための行動でも、他の人から見ると問題行動だと取られることがある。先生方も子どもの視点に立ち、それは問題行動ではないという視点をもってほしい。

委員 : 昨年度からオンライン研修がたくさん実施された。会場は設置しなくても良いし、移動しなくてもよい等メリットもあるが、講話した者には聴いてくれた人がどう思ったかということが伝わりづらい。発達障がい児等支援体制構築事業という事業を実施している市がある。特別支援学校を退職した教員等が幼稚園、こども園等へ巡回訪問し、就学に向けてどう支援したらよいかの視点を示し、とても有効な事業になっている。子どもたちをどう支援したらよいかということに対して、現場での的確なアドバイスがもらえるような研修の仕組みはとても良い。

事務局 : 貴重なご意見ありがとうございました。委員からは、子ども達の将来を見据え、子ども達の生活力、人間力をどう育てていくのかという研修の内容に対してご示唆いただいた。本日のご意見をもとに次回以降も協議し、整理してまとめていきたい。

3 閉会